避難所における体調不良者への対応マニュアル（感染症が疑われる場合）

【共通事項】

1. 緊急を要する場合（意識がない、苦しそう、冷や汗が出ている　等）は救急車を呼ぶ。
2. ①以外の場合は、診療時間内に医療機関を受診していただく。

【報告】（フロー図参照）

嘔吐・下痢　≪ノロウイルス感染症に注意≫

1. 受診をすすめる。
2. 嘔吐物・便の処理を正しく行う。（別資料参照）

検査結果でノロウイルスなどが確定しない場合も、感染性の胃腸炎を念頭に対応する。

1. 個室等に移動していただく（少なくとも嘔吐の症状のある期間は別室で過ごすことが望ましい）。

夜間の発症の場合は、翌朝でも良いので受診していただく。

1. 症状がある期間はトイレを患者専用にする。

上記のトイレは塩素系消毒剤で消毒する。排泄介助が必要な場合は、介助者は手袋とマスクを着用して介助する。終了後必ず手洗いを行う。

オムツや汚染した物品はビニール袋に入れ、塩素系消毒剤を少量入れて口を縛る。

発熱（３７．５度以上）≪インフルエンザに注意≫

1. ３８度以上の場合は、個室等に移動していただき、原則受診をすすめる。

夜の発熱の場合、救急車を呼ぶような症状でなければ翌朝の受診で良い。

1. 発熱に加え、発しんがある場合も受診をすすめる。　≪水ぼうそうに注意≫
2. ３７．５度以上３８度未満の場合　かつ　発しんが無い場合は１日１回の検温、またはその他の症状に応じて受診する。

咳が続く

1. マスクの着用をうながす。
2. ２週間以上続く場合は受診をすすめる。

※咳の症状が強い場合は、別室で過ごすことが望ましい。

その他

○目の充血と目やに。

○耳の下の腫れと痛み。　≪おたふくかぜに注意≫

○手や体の強いかゆみ。　≪疥癬に注意≫

○頭のかゆみ。　≪頭ジラミに注意≫

　受診をすすめる、または医療関係者の巡回時に相談する。

上記いずれの場合も、周囲に同様の症状がある人がいないか確認する事が大切です。

インフルエンザ・水痘（みずぼうそう）など診断が確定した場合、または同症状の方が複数いる場合は、対応について保健所と相談して下さい。

〇〇保健所　ＴＥＬ：